

天草崎津・今富地区における身近な自然環境の変遷に関する研究

Studies on the history of immediate natural environment in Sakitsu Imatomi area, Amakusa

熊本大学工学部社会環境工学科

竹中 裕基

1. はじめに

近年、大都市だけではなく、農村部や里山における生態系の保全が求められている。しかし、歴史、自然環境、生活・産業を一体的に考える重要な文化的景観選定地では自然環境に関する研究は希少種や、生物学からの観点が多く、歴史や生活と自然環境の関わりに関する研究は少ない。そこで、本研究では崎津・今富地区の自然環境の変遷について分析し、崎津・今富の風景における身近な自然環境の本質的価値を理解することを目的とする。

2. 崎津・今富地区における自然環境の変遷

崎津・今富地区の実際の自然環境の変遷を把握する。また、現状の自然環境を知るために現地調査を行った。

(1) 自然環境の変遷

地図、航空写真、その他資料から実際の自然環境の変遷を整理した。土地利用の変遷については図-1に示した。

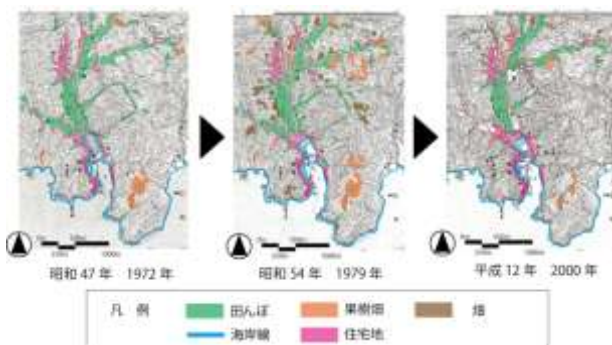


図-1 土地利用の変遷

森林、田畑は1970年代に大きく発達し、河川については1970年ごろから架橋などの整備がなされている。海岸と干潟については、戦後から長期にわたり変化してきたことがわかった。埋め立て地には、公共施設や集合住宅が建設された。

(2) 崎津・今富地区における自然環境の現状

現地調査において、地域内を歩く中で多くの動植物を見つけることができた。また、河川護岸による印象の違いや山道の様子についても把握した。

3. 崎津・今富地区における遊び場の変遷

児童期(小学校時代)における遊びと遊び場について調査し、考察していく。

(1) 世代別の自然との遊び場に関する分析

ヒアリングによって得られた児童期における遊びを世代別に3つに分けて分析した。その結果、世代ごとに特徴があり、祖父母・親世代と子ども世代の間に自然の利用について大きな遊びの変化が見られた。世代ごとの遊び場については図-2に示す。

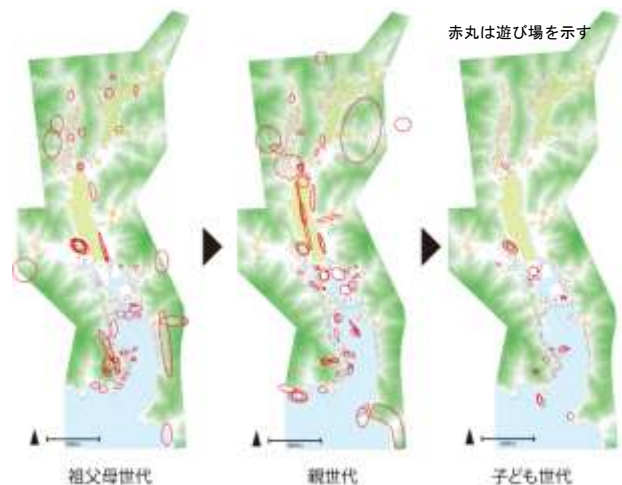


図-2 遊び場の変遷

(2) 場所別の自然との遊び場に関する分析

場所別に自然遊びがどのように変化していったかについて考察する。祖父母世代については、集落間の縄張りの意識が高く、家周辺で遊んでいた。しかし、子ども世代においては、学校周辺が主となった。これには、環境の変化、人口減少などの影響による原因が考えられる。また、崎津地区と今富地区での遊びの違いも見られた。

4. 児童期の遊び場を通した自然環境の分析

実際の自然環境と児童期の遊び場の関連性について分析する。自然と関係する遊びがされなくなった時期は表-1に示す。また、子ども世代でも遊ばれている場所は自然に触れることができる場所や、生活の中で使われている場所が多かった。

表-1 自然環境の変遷と遊びの対応

自然環境の変遷	遊び場の変遷
1940 戦時として 松・杉木の利用	遊びがされなくなった時期
1950 造林開始時期	ボタロ、ヒメドリ採り
1960 今富山麓開山 農耕地の発生と発達	サルナシ、タケノコ採り
1970 最も山が切り開かれる 雑木林→人工林	アケビ採り
1980 林業の衰退	マイタケ採り
1990 果樹畑の最盛期	ウニ採り
2000 遊山事業 テップなどに利用	野本場で遊ぶ

5. おわりに

本研究では、まず、崎津・今富地区の自然環境の変遷が1970年代を中心に変化したことがわかった。同地区の文化的景観の本質的価値として、生活と結びついた自然環境があると考えられる。